



産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例



安全衛生情報では会員各社の社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。

今回ご協力いただきました会員企業は、昭和53年重機土木工事者として新栄重機（株）設立、平成7年（株）新栄重機に変更、平成10年産業廃棄物収集・運搬業許可取得、同年事業開始。平成12年産業廃棄物中間処理業許可取得、同年事業開始。中間処理許可品目は無機性汚泥。平成19年中間処理場施設設備の全面改修。平成21年環境省指定土壌汚染指定調査機関の認定を受け、同年業務開始。平成28年郷西事務センター社屋建設本社機能移転。平成30年グループ会社（株）ワンダーウォール、中間処理施設業務開始。45年という歴史を持つ関連事業の運営における安全衛生の取組について、今年度から愛産協の安全衛生委員を務められている専務取締役の今村昌根氏にお話しを伺いました。

弊社は、事業部門が6部門（土木、クリーナー、リサイクル、マテリアル、運送（運搬）、車両整備）、業務部門が2部門（営業、経理・総務）にて業務を運営しております。ダンプカー、バキュームカー、高圧洗浄車、ポンプ車等の工事車両約60台が、現場への搬入・搬出等の重責を担っています。日々多くの大型車両が運行しているため、運転操作及び作業においては安全第一を掲げ、安全衛生運営委員会を中心とした各取組を、部署ごとに実施しておりますので、今回いくつかの具体的な取組事例をご紹介します。



社内の取組事例について
お話しされた今村専務取締役

（今村専務取締役談）

プして調達をしておく。

◎10月の衛生月間

「安全大会」の開催（1回/年）

安全衛生運営委員会での決定事項は、各部署へ委員会から通達をする。

◆プラント内での取組事例

プラントに入ってきたダンプカーは、車を停車した位置の目の前に①の看板があり、その手順に従い、必ずキャッチピンを外すよう目視確認の意識付けを行っています。

併せて、車両を誘導する者が、キャッチピンを乗務員が外したどうかを確認することが、自社内での取組です。

また、外国人作業員のために『安全確認!』の手順を英語とポルトガル語で表記し、従業員全員が安

◆安全衛生運営委員会 2回/月 開催

7～8名（各部署から選出）で構成

・7月事例

◎職場での熱中症対策

- ①作業中（空調服の着用、こまめな水分補給と休憩）
- ②各自の体調管理（睡眠時間の確保、疲労を貯めない）

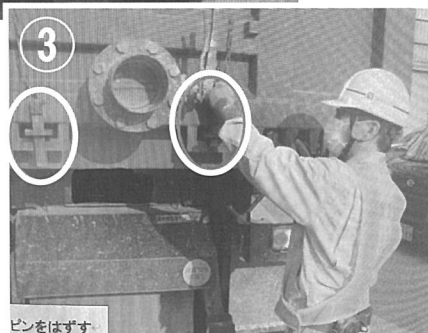
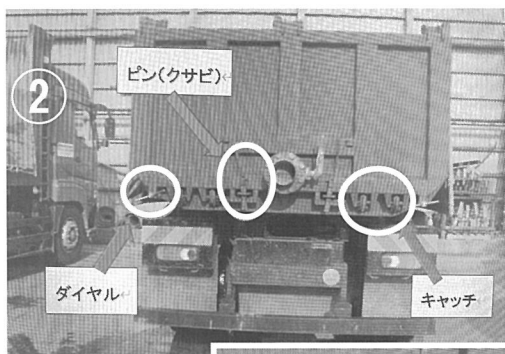
◎安全パトロール

建設課現場、クリーナー課現場、プラントの3部署の担当者が、担当地域部をパトロールする。

◎BCPの備品管理

本社・営業所・支店において担当者がリストアッ





全な業務が行えるような体制が整っています。

現在、プラント内では**事故ゼロ**を継続しているとのこと。この目標が達成できているのは、運営管理部長の山田義秋氏の安全衛生への熱心な取組によるものとのこと。

◆講習会・訓練等

「安全運転講習」小牧警察署から講師を招き開催
(1～2回/年)

災害訓練は、災害時を想定し各部署における緊急時の対応について訓練を行います。

特に消火器は社内各所に設置されていますが、実



小牧警察署から講師を招き「安全運転講習」を開催



社内における災害訓練の説明、役割を傳達する



災害訓練時に実際に消火器を使い操作手順の確認を行う

山田部長から一言

弊社では、安全はもちろんのこと『事故無し、怪我無し』で、家族に「ただいま」と元気な声で笑顔を持って帰り、家族が安心して暮らせる安全対策を日頃呼びかけています。そのためにも、安全衛生社員教育等を受講し、習得した内容を遵守して意識統一を図り、人と人とのつながりを大切にしています。

作業員の意識の高さが、プラント内での事故ゼロという誇れる実績となっていますので、今後も一致団結して推進してまいります。

皆様に、弊社の『安全はすべてに優先する』の安全訓を送らせていただきます。



(株)新栄重機
山田運営管理部長

際に消火器を使う機会が無いことから、訓練の中で消火器を使い、もしもの場合において迷うことなく操作ができるように体験することが目的です。

今村専務は、9月1日開催された当協会主催の「新入社員安全衛生教育・研修」にて、安全衛生委員として新入社員の方に向けて講演をされました。テキストに沿った講義内容に加え現場の事例を交えた話は、経験の浅い新入社員の方にとっては、実践に向けて貴重な研修となりました。